

2023仙台市議選 立候補予定者 こども子育て政策に関するアンケート

回答者名【 大河原ふゆこ 】 立候補予定選挙区【 宮城野区 】

問1. 仙台市では、保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業を行っていますが、どのように評価していますか。

モデル事業ということで、家庭側のニーズの把握や実際のお子さんの成長などを見ていくものだと思うのだが、実施施設も受け入れ人数も少ないように思います。

問2. 仙台市発達相談支援センター（アーチル）が、受付から相談対応まで最大4ヶ月かかることに対して、どのようにお考えですか。

私の周りでも、アーチルにお子さんの子育て支援の件で相談に行ったお母さんがいらつしやり、アーチルの対応について問題視する声を直接にも間接にも聞いています。最大4ヶ月といった対応ではもちろん遅すぎると思いますし、なぜ時間がかかるのか、運営体制の見直しが必要だと思います。

問3. 厚生労働省は、インクルージョンを推進していく上では、児童発達支援と幼稚園・保育所等との併行通園を推奨していくことが重要としていますが、どのようにお考えですか。

併用通園に賛成です。混ぜこぜの居場所が多くあることが望ましいと思います。

問4. 仙台市には、障害のある子どもを保育園に預けたくても預けられず、就労を諦めている人が一定数おります。この現状についてどう思われますか。

私はここ数年、アートマネージャーとして、文化芸術と社会を掛け合わせるような仕事をしています。福祉の現場で演劇活動を一緒にさせていただく活動などを行なってきましたが、「共生ケア」といった概念を知り、障害のあるお子さん含め、地域や社会で多世代、いろんな人たちが混ぜこぜに過ごしていく場所づくりが必要と考えています。例えば、保育園や老人ホーム、レストランや就労支援事業所等の多世代複合施設が仙台でも誕生していますが、そのような子どもを預け、保護者は同じ場所で働くといったコミュニティが多くあると、様々な側面から柔軟に働いたり、生活ができたりするのではないかと思います。そのような様々な機能を持った地域の（居）場所づくりの支援や推進は、市政で取り組みたいことの1つです。

問5. 仙台市の医療的ケア児の保育所受入れ人数は100万人当たり4.6人で、政令指定都市20都市中17位です。この現状についてどう思われますか。

とても少ないと思います。仙台市立の保育施設は4ヶ所のみ、私立が6ヶ所とのことで、医療的ケア児が増加している状況に、仙台市としての対応が必要ではないかと思います。まずは家庭のニーズの把握、そして現場の体制整備でしょうか。

問6.その他、コメントあればお願いいたします。

自分も仙台市立の保育園に4歳の息子を預かってもらっている母親でもあります。病児保育については、やはり子供が37度5分以上の発熱があると仕事にお迎え要請があり、時に困ることもありました。子供はそもそも体温が高く、また本人が食欲もあるなど元気な様子でも、やはり一律の対応になるようで、自分はフリーランスなのでそれでもまだ融通が利きますが、会社勤めの方などは大変ではないかと思っていました。もちろん、子供の体調不良や不安にまず寄り添いたい気持ちはありますが、37.5度の壁問題は、医学的な検証も必要ではないかとも思うことがありました。

フローレンスさんの事業については少し伺ったことがありましたが、今回のアンケートを機にウェブサイトを見、学びが多くありました。私自身も、まずは地域の皆さんの声、ニーズをよく聞き、市政でできることはどのようなことが、引き続き学び考えてまいりたいと思います。

こども達のために、日本を変える

Florence